

街かど gallery



裾野にも、景気回復の温かい春風が、吹いているだろうかと、一年ぶりに頭をもたげた土筆ん坊。
回復の春風が、増税による寒のもどりとまらないかと、頭をかきあげている。

八女川柳会 安達 昇



今月の山柳

ふるさとの伝統行事③

彼岸

彼岸と言えば、彼岸詣り、彼岸籠り、彼岸花、千人参りを思い出します。「彼岸」は「此岸」の対句で、煩悩を解脱して達する境地、悟りの世界を言います。醜い現世に対する極楽浄土の世界と言ったところでしょうか。

「暑さ寒さも彼岸まで」の譬え、文字通り春の彼岸はうららかな春光、鳥鳴き花笑うの好季の出発なのです。これに比べて秋の彼岸は凋落と厳冬への暗示で、「冬来たりなば春遠からじ」で、人々は春の彼岸を待ちわびていました。

祝日として定着してはいますが、祭りに参加する者は殆んどありません。老人達は早朝からゲートボールに現を抜かし、留守番の婆さんは茶の間で茶を啜りながら、嫁姑葛藤のテレビに一喜一

弘法さん参り(千人参り)

樋口 保 画



立花町山崎 平 溪子

初めて水墨画に出会ったのは八女市祈禱院の郵便局でした。みごとに描いてありました。私もいつかあんな風に描いて見たいと思いました。ある日公民館講座で水墨画教室がある事を知りさっそく入会しました。中島美代子先生に御指導頂く様になり、墨一色で、ぼかしや、濃淡で描くむずかしさに苦労しています。月に二回の教室で、先生から手本をもらって自分なりに描いた絵を指導して頂く事が楽しくなりました。まだまだ上達は出来ませんが教室の仲間、先生に応援して頂き頑張りたいと思っています。

生誕80周年記念 藤子・F・不二雄展

会期 3月29日～5月18日
会場 福岡アジア美術館
主催 九州朝日放送・朝日新聞社
入場料 大人(一般・高大生) 1200円(1000円)
子ども(4歳～小中生) 600円(500円)
親子ペア 1700円(1400円)
()内は前売り



©藤子プロ オバケのQ太郎/©藤子プロ・藤子スタジオ

お問い合わせ先 藤子・F・不二雄展 福岡会場事務局 ☎092-291-6792

矢部川源流・杉の里の四季 ⑳

ハハコグサ(母子草)[キク科]



春の七草の一つ、オギョウ(御形)はハハコグサのこと。花をつけない若い葉を食用とし、七草がゆの具にします。

矢部村では茶畑など、日当たりのよい畑や道ばたに普通に見かける2年草(越年草)。全体に細かな綿毛でおおわれているため白っぽく見える。開花は4～6月。

この草の開花期に全草を採取し、天日でよく乾燥させたものを生薬の鼠麴草(そきくそう)といい、咳止めの効能があるとされている。

(黒木町) 松尾 重根

憂です。嘗ては中日には老若男女打ち連れて、饅米袋を肩に、杖をついて札所巡りに出ていました。脚力の衰えた人は、代わりに菩提寺に詣つていたものです。耳の遠い老人は効き耳に手を当てがって説教に聞き入ったものです。

活力朝礼



皆さん一度はこのお店名代の手羽先を食べたことがあるのではないのでしょうか。八女・筑後エリアで飲食店を展開する「ひよっこ」さんの朝礼は

お昼の12時から始まり、各店のスタッフ全員が八女本店に集まり、お互いの顔が見えるように円形での活力朝礼です。朝礼を始めてから

「みんな以前よりも時間の意識が高まり、行動にもメリハリがついてきました」と八女本店の永田店長はその効果を語られました。挨拶の実習、「職場の教養」の輪読から感想発表、連絡事項の伝達が終ると、みなさんいっせいに各店へ飛び出していかれました。元気で明るいお店の雰囲気は、この朝礼にあるのかもしれないですね。

有限会社ひよっこ

八女市本町1-243

TEL 0943-123

15809

活力朝礼を取り入れたい方は、筑後倫理法人会事務局0942-4212815迄